

# 國學院大學學術情報リポジトリ

発題2 現代武道が国際ステージで果たす役割  
(平成二十三年度 國學院大學人間開発学会第三回大会  
公開シンポジウム 現代武道の人間開発力：  
日本の身体文化から何を学ぶべきか)

|       |                                                                                                                |
|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| メタデータ | 言語: Japanese<br>出版者:<br>公開日: 2023-02-06<br>キーワード (Ja):<br>キーワード (En):<br>作成者: ベネット, アレキサンダー<br>メールアドレス:<br>所属: |
| URL   | <a href="https://doi.org/10.57529/00001223">https://doi.org/10.57529/00001223</a>                              |

発題②

## 現代武道が国際ステージで果たす役割

アレキサンダー・ベネット

みなさん、こんにちは。関西大学のベネットです。

私は、今の植原先生と中村先生がお話しになった内容から、少しテーマを変え、武道の国際化、国際普及について話をさせていただきます。

### 武道の国際的普及の現状

資料としてお配りした「現代武道が国際ステージで果たす役割」というところに、表が二つ（表1、表2参照）あります。二三年前に作成した表ですので、情報は少し古くなっていますが、日本の武道の中で、国際連盟ができているところを挙げています。そこを見ていただければ分かりますように、加盟国の数からいきますと、国際柔道連盟は百九十九カ国ということになっています。どんなスポーツでも国際連盟で百九十九ぐらいの加盟団体があるというのはいすごいことなんです。

加盟国数が一番多いと思われるのはIEFA（国際サッカー連盟）で、二百八カ国です。国際加盟団体数からいきますと、柔道はサッカーの次に多く、世界中にどれだけ普及しているかがよく分かるかと思います。

次に多いのは空手です。これも少し古い情報ですが、表では百七十三カ国となっています。国際的な武道の普及を考えますと、一番多いのは空手だと思います。空手は日本国内の競技人口からいきますと、柔道や剣道と比べて少しマイナーな武道といえます。しかし、国際的に考えると、やはり空手が一番多いです。世界中でどれぐらいの人がやっているかと言うと、はっきり分かりませんが、おそらく一億人以上だと言われます。どうやってそれを計算しているかはさっぱり分かりませんが（笑）。とにかく一億人以上だと言われている。

空手は特に日本でいろいろな流派がありますが、外国で新しくできた流派もあります。何か訳の分からない奴が、自分が十段だと名乗って、自分の流派を作ったという怪しいものが非常に多い世界ですが。しかし、日本で管理している国際連盟の加盟国数をみても相当の数があるということが分かります。

また、剣道は少し増えてきて、四十七カ国になっており、まもなく五十カ国を超えるところです。剣道は日本ではメジャーな武道ですが、外国では少しマイナーです。あと、なぎなたは十三カ国、一番新しく国際連盟ができた弓道は、十七、八カ国となっています。

[国際統轄組織の名称] (表1)

| 日本語表記    | 国 際 表 記                                     |
|----------|---------------------------------------------|
| 国際柔道連盟   | International Judo Federation (略称: IJF)     |
| 国際剣道連盟   | International Kendo Federation (略称: IKF)    |
| 世界空手道連盟  | World Karate Federation (略称: WKF)           |
| 国際合気道連盟  | International Aikido Federation (略称: IAF)   |
| 国際なぎなた連盟 | International Naginata Federation (略称: INF) |
| 国際弓道連盟   | International Kyudo Federation (略称: IKYF)   |

[結成年度・加盟国等] (表2)

| 略式名称       | 結成年度 | 発足時の加盟国数 | 現在の加盟国数   | 現在の会長国 |
|------------|------|----------|-----------|--------|
| IJF (柔道)   | 1951 | 11 ケ国    | 199 ケ国・地域 | オーストリア |
| IKF (剣道)   | 1970 | 17 ケ国・地域 | 47 ケ国・地域  | 日本     |
| WKF (空手道)  | 1970 | 33 ケ国    | 173 ケ国    | スペイン   |
| IAF (合気道)  | 1976 | 29 ケ国    | 42 ケ国・地域  | 日本     |
| INF (なぎなた) | 1990 | 7 ケ国     | 13 ケ国     | 日本     |
| IKYF (弓道)  | 2006 | 17 ケ国    | 17 ケ国     | 日本     |

今、日本武道といわれるもので国際的に普及しているのは以上のようなものがありますが、ほかに、相撲や銃剣道や少林寺拳法などがあります。特に少林寺拳法は私が調べたところ、日本国内よりもインドネシアのほうの競技人口のほうが多い。いろいろな国によって、なぜこの武道がそれだけ流行っているのか、人気があるのか、よく分からないところがあります。とにかく、ここで言いたいのは、日本の武道が、普通日本人が考えるよりはるかに国際的に普及しているということなんです。

### 日本の文化輸出の中で最も成功している武道

世界のどこに行っても、どんな国に行っても、その国のどんな田舎町に行っても大体何かの道場があります。何かあります。その道場に入ってみますと、現地の人が、伝統的な柔道着や空手着、あるいは剣道着と袴を着て、日本語の号令に従って武道に励んでいる姿がよく見られます。本当に世界のどこに行ってもあるんですよ。びっくりするぐらい。まるで日本が移植されたような、そうした道場風景があちこちにあります。

そういう意味で私がよく言っていることなのですが、日本の文化輸出品の中で最も成功しているのがやはり日本の武道だと思っんです。今は世界中にアニメなど、日本のいわゆるポップカルチャーに非常に人気がありますが、武道がやはりナンバーワンだと私は思います。

実は武道とポップカルチャーがつながるところもあります。最近、また少し武道がブームになっています。先ほど植原先生が同じようなことをされているとわかりましたが、私が今教え

ている関西大学でも、交換留学生がすごく武道に対して興味を示しています。その留学生たちに、「なんで武道をやりたい？なんで剣道をやろうと思っているのか？」と聞くと、「いや、アニメが好きなんで」という答えが返ってきます。アニメと剣道とどう関係があるのかがよく分かりませんが、どうもアニメやポップカルチャーからそういう武道の世界に入ろうとしている外国の若者が多いということが分かります。そうした状況は関西大学に限らないようです。私の仲間が、アメリカのネブラスカ大学で、空手となぎなた、剣道の授業をやっています。二十年前だったら受講生が十人集まるかどうかという状況だったのですが、今では百人以上の学生が受講しています。それぐらい、外国人は武道に対して関心を持っているということが言えます。

### イランでは武道がサッカーの次に競技人口が多い

私の研究テーマの一つは武道の国際普及です。なぜ武道がこれだけ世界中に普及できているのか、なぜ外国で、日本人ではないのに、そんな日本の伝統文化に憧れているのか、ということとを研究しています。その関係で、六年前にイランという国に行きました。イランといえば、「また核兵器を作ろうとしているんじゃないか」というような、最近悪いニュースばかりが出てきている国です。

どれぐらい向こうの大学で日本文化の授業をやっているのか、また日本の武道はどれぐらい普及しているか、その二つのテーマを持って三、四カ月ぐらい行ってきました。

イランに行ってから、柔道、空手、テコンドー、剣道などすべての武道を合わせた競技人口が、サッカーの次に多いということに驚きました。イランで一番人気のあるスポーツはサッカーです。ナンバーツーが武道です。イランの文部省の中に体育局があります。体育局の中に武道課があります。それぐらい政府が武道をきちんと管理しているという状況からも、武道にどれぐらい人気があるかが分かります。

先程道具の話が出ましたので、その点についてもふれておきたいと思います。他の諸外国と同様、イランでも空手や柔道の競技人口に対して、剣道はまだマイナーです。そのため、やりたいという人がいても、防具等の道具がなかなかそろいません。また、気候がたいへん乾燥しているため、竹刀も壊れやすく、私が日本から持って行った竹刀も、たった一回の「切り返し」で割れてしまったほどです。ですから、皆竹刀ではなく、プラスチックのパイプを使って打ち込み等をしているのを見て、たいへん驚きました。

また、今日中村先生が披露された居合道も稽古している人たちがいます。しかし問題は居合刀です。日本の刀がないのです。だから自分たちで作っているんですよ。それを使って居合道をやっている。それぐらいみんな熱心にやっているわけですね。

また、イランにはイスラム教が入る前からゾロアストリア（ゾロアスター）教という宗教があります。自然崇拜というか、神道と共通している部分がある宗教です。この写真は、その遺跡です。遺跡だからすごく大切に思うでしょ。これは実は落書きなんです。こんな遺跡に落書き書くやつがおるかーと思っぴっくりしたんだけど、さらに近いところに行ったら、



こんなものまでありました。これは何かと言うと日本の極真会空手のマークなんですよ（笑）。びっくりしましたね、ここまで来ているのかと思って。重要な点はさっきも申し上げたように、世界のどこに行っても日本の武道は何かの形で存在するということです。

次に、この写真は、実は合気道の写真で、これもイランで撮ったものです。

学生には生まれる前の話なので、多分分らないと思いますが、少し年配の方だったら、多分覚えていると思いますが、一九七九年にイランで革命が起こりました。その時からシャイという王様が追い出されて、アーヤトッラー・ホメイニという宗教指導者がイランに戻ってきて、イランという国がその時からイスラム原理主義になったわけです。その時、テヘラン大学の学生が大きな暴動を起こして、アメリカ大使館に入ってしまったんです。学生が大使館のスタッフを人質にしたのです。その人質事件が四百四十四日間続きました。事件発生時からアメリカは、時のカーター大統領が人質を返してくれと要求したが、アーヤトッラー・ホメイニが返すものかといって、ずっとその事件が続いたのです。結局カーター大統領がレーガンに選挙で負けて退き、負けた瞬間にそのアメリカ大使館のスタッフがアメリカに帰れるようになったのですが、その時から、アメリカとイランは外交関係が全く無いわけです。無いから今たまたごく怖い状況になっていると思います。核兵器開発の話などが盛り上がっていて、非常に複雑です。

それはさておき、この写真の道場は、実はその旧アメリカ大使館の中にあるんです。今アメリカとイランの外交関係は無い



のですが、その建物がまだ残っているんですね。その一部が武道館になっている。私がそれを知った時はすごくびっくりしました。この写真では見えないですが、ちよつと左側のほうにアーヤトツラー・ホメイニというイランの偉い方の写真が掲げてあって、その横に嘉納治五郎の写真、船越義珍の写真、植芝盛平の写真と飾ってあるのです。今日本の若者に見せても「誰やねん、このおっさんは」ということになるんだけど（笑）、一応武道の世界で偉い人が、向こうではすごく崇拜されている証しなわけですよ。自分の国の宗教の指導者、最高責任者と同じところに写真が飾ってあるのだから。それを考えると、日本の武道って何なんや、なんでそこまで人気があるのか、と自分で目の当たりにして、本当にびっくりして帰ってきました。

### 外国人が武道をやる動機とは

私のレジュメに簡単な説明を書いてありますが、なぜ外国人が武道に憧れを感じるのか、なぜそれをやろうとしているのか、その動機について、いくつかリストアップしました。

まず、競技スポーツとしてやっている。柔道もそうですし、空手も相撲もオリンピック種目になろうとしている。またテコンドーは韓国の武道だといわれますが、それもオリンピック種目なんですよね。だから競技スポーツとしてやる人は確かに多いです。

また格闘技を、護身術としてやっている。特にいじめられっ子、また女性の多くが武道をやり始める動機というのは、やはり自分の身を守るためだという人が多いです。けんかに強くな

るためや護身術としてやるという人も少なくない。

また「健康法」。武道の一つの特徴として、生涯にわたってできる運動文化です。普通のスポーツですと、大体二十代、三十代ぐらいで試合ができなくなったらもう引退するという人が多いのですが、武道はそうではなく、本当に四十歳、五十歳、六十歳、七十歳、八十歳、九十歳になっても、まだできる運動文化ですので、そういう意味では、生涯にわたって自分の健康を維持するためにやる人も海外には多いわけです。

また日本文化として。これもいろいろなケースが考えられます。アメリカや南米に住んでいる日系人、自分の日本人のルーツが日本にあるわけですから、そのアイデンティティーとつながりを持つためにやる日系の人もいます。剣道は特に、例えばアメリカでは、日系の実践者人が非常に多いというのはそういうところにあります。

それとまた別に、日系ではなくても、さっきも言いましたように日本の文化に興味を持っている若者、例えばアニメが好きだからと、日本文化をもっとより深く勉強したいと考えて、武道をやり始める。最近、特に若者が多いようです。

それから、サムライ・スピリットといわれるもの。これはちよつと誤解が多いかもしれません。特に日本のバブルが崩壊してから、「なんだ、日本の経済・企業経営はそんなに大したことないじゃないか」ということになって、それでこういう動機をあまり聞かなくなりました。要するに日本の経済が絶好調の時に、あの日本の経営王のビジネスのやり方をどう学んだら良いのか、それを裏付けるのが「武士道」ではないか、サムライの文化ではないかと。日本からもそういうふうにつ

る人も多かったので、それで武道を何かやれば、自分たちもそのビジネスのノウハウが分かるのではないかという、今考えるところごく笑ってしまう話です。特に一九八〇年代や九〇年代までがそうでした、それで武道をやり始めた人が多いです。

また、例えば『葉隠』や『武道初心集』、『五輪書』、『兵法家伝書』という、江戸時代に書かれたサムライ文化に関する本が英訳されています。今でもベストセラーとして、もしくはロングセラーとして、大きな本屋に行くと、そういう本が結構たくさん売られているわけですね。

また、私が特に興味を持っているのは、簡単に説明しますと、「精神修養」や「人間形成」、または宗教的な動機で武道を始める人も多くなっているという現象です。

さっきの中村先生の話の中でもありましたが、礼儀作法とともに、例えば「残心」や「無心」など、武道の一つの特徴として、「心」が付く用語が多いのです。要するに「精神文化」、もちろん体を使う精神文化です。そこで「道徳」ということまでは言いたくないのですが、自分を見つめる、さきほど中村先生もお話しされたように、自分の弱点やそういうものを無くして、肉体的にも精神的にも強くなるというのは、一つの武道修行の目的であって、それになりたいへん憧れを感じている人がとても多いのです。ただけんかが強くなるのではなくて、精神的に強くなるということです。

## 「宗教のサプリメント」としての武道

さっきのイランの話にもつながりますが、次に見てもらいた

いのが、この地図です。ちょっと見にくいですが、色の濃いところが一番信仰深い国だといわれています。信仰深いというのは、どんな宗教でも、例えばキリスト教でもイスラム教でもなんでもです。色が薄くなればその信仰が深くないというか、「世俗社会」と言うか、宗教がそんなに日常生活において影響がないという国ですね。

武道の面白いところは何かと言うと、特にこの精神文化のことを考えますと、例えばイランという国はさっきも紹介しましたように、「武道気違い」になっているんです。武道が好きでたまらないんですよ、イラン人たちは。さっき言ったように、ここではサッカーの次に競技人口が多いのが武道なんです。

では、なんのために彼らはやっているのか。それは、スポーツとしてやっている人もいるし、護身術としてやっている人もいるし、いろんな人がいます。あそこはイスラム原理主義の国だから、やはりみんなとても信仰深いですね。

ただ、武道にも同様に精神的な部分を重んじる特徴があります。私はそこに行つてイラン人をいろいろ調べ、「こういう武道の教え、武道の知恵、武道のそういう精神的な部分は、あなたの宗教のイスラム教に対して摩擦がないのか」と聞いたところ、何と答えたかと言いますと、「いや、それどころじゃなく、武道の精神的な部分が逆に私たちにとっては一番魅力的なところだ」というのです。

なぜかと言いますと、武道をやることによって精神的にも肉体的にも強くなります。精神的にも肉体的にも強くなるからこそ、より良いムスリム（イスラム教徒）として生活できるということです。つまり「自分たちの宗教のサプリメント」とし



てやっているという人が少なくない。みんなそうとは限りませんが、そういう人が多かったですね。自分の宗教のサプリメント、ビタミン剤ですね。なるほどと思いました。

### 「宗教の代わり」としての武道

一方、私の国はニュージーランドですが、先ほどの地図上では、宗教はそんなに盛んではない。一応キリスト教の国だとは言われていますが、例えば私も完全に無宗教です。教会は一回、二回ぐらいしか行ったことがない。お葬式の時と結婚式の時ぐらいです。別にゴッドを信じるわけでも信じないわけでもない。あまり関心がない。私みたいな人が、実は非常に多くなっています。この地図上の色が薄いところが大体そういう人が多いということです。

では、さつき濃い色のイランを一つの例として挙げましたが、その薄い色のところでは、武道の魅力的なところとは何かと言うと、例えば精神文化として、宗教のサプリメントではなく、「宗教の代わり」というふうに魅力を感じる人が結構いるのではないかと思います。非常に限られた時間でそれを説明することは不可能ですが、武道をやることによって、自分の精神的なよりどころというのか、支えになっているということです。もちろん宗教というのは、いろんな定義があるわけで、日本人は「え？宗教の代わり？なんじゃそれ？」と思うかもしれません。

特に最近、といってもこの二十年前から、自分の国はそうなのですが、「キリスト教離れ現象」と言うんでしょうか。もともとニュージーランドという国は、コミュニティの中心が教



会だったのですが、もうなくなっているわけですね。そういう宗教離れ現象というのがありますが、人間だから不安がある。精神的な支えを求めるのが人間なんです。それを宗教や教会に求めているのではなく、違うところで求めるようになっていく。その中の一つは武道なのです。また東洋の思想全体の、例えば禅やヨガといったものも最近一部の人の中で流行ってきています。だから宗教観が変わってきていると言ってもいいでしょうね。そこで武道が一つ面白い役割を果たすようになってきているということです。

だから、私はいつも強調していることですが、自分にとっての武道は、スピリチュアルジャーニーです。「聖なる旅」というのではなく、「終わりなき旅」、「自分発見の旅」という意味の武道の精神性が、非常に面白い現象というか、武道でそういう何かを求める外国の人をどんどん増やしてきているということとは、自分が今までやってきた研究とともに自分の経験からも言えることだと思っています。

### 日本の武道は世界の普遍的な文化

これで終わりになりますが、やはり武道が日本の伝統文化だ、日本の固有文化だとよくいわれます。日本のユニークな文化であるとして、日本人、特に武道をやっている人たちはすごくそれにプライドを持っているわけです。逆に「外国人には本当は武道の真髄なんか分かるわけないだろう」と言う人もよくいます。私は、それはちょっと違うのではないかな、と思います。武道の美しいところは、私からすれば日本の固有性という

よりも、その普遍性、つまりどんな国の人間でも武道をやることによって得るものがたくさんあるということですね。

さっきのイランもそうだし、ニュージーランドの話もしましたが、その普遍的な部分が武道の一番素晴らしいところではないかなと思うのです。

みんな武道イコール日本の伝統文化だということが終わってしまいましたが、もっと大きく見れば、日本の武道は世界の人間の普遍的な文化でもあります。

今の形の日本の武道が日本でできたのは誰も否定しないし、その上で、それが文化、国境を超える素晴らしいものを持っていると思うのです。その証拠として、さっきも言いましたように、世界のどこに行っても熱心にその武道をやっている人が、数え切れないほどいるのだということを、ご理解いただければと思います。

時間を超過してしまい、申し訳ありません。これで終わりたいと思います。ご静聴ありがとうございました。

(あれきさんだー・ベねっと・関西大学国際部准教授)